

2026年4月20日

第39回「京都美術文化賞」受賞者決定について

このたび、公益財団法人 中信美術奨励基金 理事長 白波瀬 誠（京都中央信用金庫理事長）では、顕彰事業である第39回「京都美術文化賞」の受賞者を決定しましたのでお知らせいたします。

記

1. 第39回「京都美術文化賞」受賞者・受賞理由

星野 暁(ほしの さとる) 陶芸・80歳

素材との直接的な関わりから生まれる土の特質や存在感を表現し、実績を重ねている。

村田 好謙(むらた こうけん) 漆芸・69歳

伝統的な漆芸に多様な技巧を融合しつつ、焦点の定まった作品で、漆の表現の可能性を追求する。

大西 伸明(おおにし のぶあき) 現代美術・54歳

樹脂による型取りや版画技法を駆使し、身近なモノの在り様に独自の視点を提示する。

2. 贈呈式

日時 2026年5月25日（月）午後2時30分

会場 ウェスティン都ホテル京都 葵殿

京都市東山区三条けあげ TEL 075（771）7111

3. 京都美術文化賞について

美術の創作活動を通じて京都府市民の精神文化向上に多大の功績があった方に対し、「京都美術文化賞」として賞牌と賞金1人金300万円を贈呈し、創作活動を奨励しています。1988年5月の第1回に始まり、今回で第39回目の贈呈となりました。

(1) 選考委員(敬称略)

太田垣 實 (美術評論家)

潮江 宏三 (京都市立芸術大学名誉教授)

篠原 資明 (京都大学名誉教授)

福永 治 (京都国立近代美術館長)

冷泉 為人 (公益財団法人冷泉家時雨亭文庫理事長)

(2) 受賞記念展の開催

日時 2027年1月(予定)

会場 京都文化博物館

(3) 過去の受賞者(別紙一覧参照)

受賞者総数 117名(今回を含む)

絵画 43名(日本画21名 洋画14名 版画7名 その他1名)

彫刻 13名

工芸 42名(染織13名 陶芸20名 漆芸5名 截金1名
截金ガラス1名 人形1名 ガラス造形1名)

その他 19名(写真3名 ファイバーアート5名

マルチメディアアート1名 現代美術9名 花人1名)

・受賞後の活躍

第1回受賞 秋野不矩氏、1999年度文化勲章受章

第7回受賞 黒崎彰氏、2008年瑞宝中綬章受章

第9回受賞 岩倉寿氏、2003年日本芸術院賞受賞、2006年芸術院会員

第9回受賞 木村光佑氏、2012年瑞宝中綬章受章

第13回受賞 江里佐代子氏、2002年人間国宝認定(当時史上最年少)

第19回受賞 宮瀬富之氏、2009年日本芸術院賞受賞、2022年芸術院会員

第24回受賞 森村泰昌氏、2011年紫綬褒章受章

など、受賞後の活躍はめざましいものがある。

(4) 「京都美術文化賞」の意義

伝統ある京都の芸術を発展させ、京都からすばらしい芸術家を誕生させる刺激となっている。美術関係者からは、この賞の足跡について「京都の優れた芸術が集まり、京都の美術界の流れをあらわしていて意義深い」と評価をいただいております。

4. 公益財団法人 中信美術奨励基金について

京都中央信用金庫の預金量一兆円達成(1986年11月)を記念し、1987年4月1日に設立しました。京都府下における美術の創作活動を奨励し、伝統的文化の継承発展並びに京都府・市民の精神文化向上に寄与することを目的としています。2011年4月1日より公益財団法人に移行しました。2019年京都市芸術振興賞を受賞いたしました。

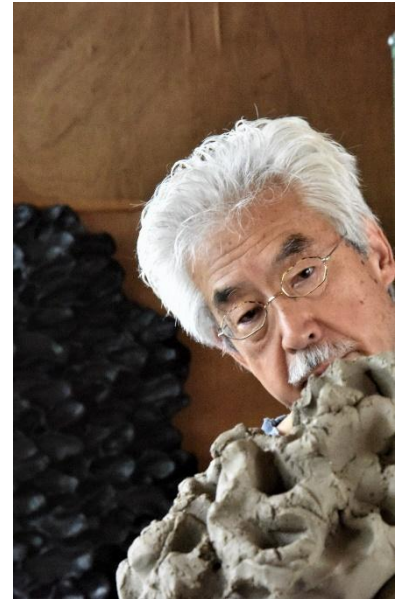
以 上

星野 暁(ほしの さとる) 陶芸 80歳

1945年新潟県生まれ。'71年立命館大学経営学部卒業。'72年より藤平陶芸にて陶芸見習修行。'74年〜'80年走泥社展出品。'79年黒陶技法による見える表層から見えない深層に視線を導く「表層・深層」シリーズを開始。

'86年集中豪雨による山津波にてアトリエ崩壊を体験。以後自然物としての土に身体をもって無媒介に切り込み、混沌から新たなる秩序（作品）の生成に立ち会うと云う姿勢をインスタレーションで展開。'05年より「始まりのかたち螺旋と出会って」を展開、加えて焼成に置ける溶解の問題に釉薬を使った「春の雪」シリーズで取り組み、また色と指跡による装飾の発生へと展開して現在に至る。

'81年〜'22年国際陶芸アカデミー会員。'91年〜'03年大阪産業大学環境デザイン学科にてクラフトデザインを教える。



展覧会：'79年「第5回日本陶芸展」《表層・深層》出品、'80年「アート・ナウ'80」（兵庫県立近代美術館）、「第13回日本国際美術展」（東京都美術館・京都市美術館）、'93年見附市文化ホール「アルカデア」（新潟県）に陶壁作品《泡の誕生より古代緑地そして泥炭層へ》委嘱制作、'99年個展「再生／コペルニカス以前の泥Ⅱ」（アリアナ美術館／スイス）、'00年個展「古代緑地」（西フランドル州立近代美術館／ベルギー）、'01年個展「古代緑地の雨」・パフォーマンス「水・土・日と身体の間」（ビクトリア&アルバート博物館／イギリス）、'02年個展「滋賀の現代作家展 星野 暁 黒陶 出現する形象」（滋賀県立近代美術館）、'10年「第21回ヴァロリス国際陶芸ビエンナーレ」（マニエリ美術館・陶芸博物館／フランス）、'17年「始まりのかたち—螺旋'17」（LIXILギャラリー／東京）、'18年「セラミックス ナウ ファエンツァ 60周年記念展」（ファエンツァ国際陶芸美術館／イタリア）、「水と土の芸術祭」（新潟市美術館 他）、「インド陶芸トリエンナーレ—開拓」（ジャワハー美術センター／インド）、「台湾国際陶芸ビエンナーレ—人文回帰」（新北市立鶯歌陶磁博物館／台湾）など多数。

受賞：'79年「第5回日本陶芸展」文部大臣賞、'80年「第2回ジャパンエンバ美術コンクール」優秀賞、'98年「サントリー美術館大賞展—挑むかたち」佐治奨励賞など。

代表作：「表層・深層Ⅱ」（'79年）、「再生／コペルニカス以前の泥Ⅱ」（'99年）、「始まりのかたち—螺旋'17」（'17年）



「表層・深層Ⅱ」
1979年



「再生／コペルニカス以前の泥Ⅱ」
1999年



「始まりのかたち—螺旋'17」
2017年

村田 好謙(むらた こうけん) 漆芸 69歳

1956年京都府生まれ。'75年京都市立美術工芸高等学校(旧日吉ヶ丘)漆芸科卒業、漆芸作家 服部峻昇氏に師事。'77年~'80年日本画専門学校に在籍。伝統的な漆芸技法に加え、多様な表現方法を駆使したダイナミックな構図で、自然の美しさや神秘を表現する。'08年日蓮総本山身延山久遠寺五重塔内壁面制作。京展、日展など公募展で審査員を務める。好謙漆工房主催。日展特別会員、日工会常務理事・事務局長、京都府工芸美術作家協会副理事長、創工会会員。



展覧会：'90年アートフェア(アメリカ、'97年アメリカ、'07年韓国、'17年中国)、'96年個展(オランダ)、'01年「京都の工芸展」(京都国立近代美術館・東京国立近代美術館)、「京都の工芸 in エディンバラ展」(イギリス)、'03年個展(アメリカ)、'05年「日本・ノルウェー交流100周年記念展」(ノルウェー)、'08年「日本・フランス交流150周年記念工芸京都展」(フランス)、'13年「日本・ベトナム交流40周年記念工芸京都展」(ベトナム)、'16年「パリ 10人展」(フランス)、「台日芸術交流展」(台湾)、'17年「シーボルトハウス現代漆芸展」(オランダ)、「作家協会選抜展」(中国)、'18年「上海劉海粟美術館京都工芸選抜展」(中国)、'24年個展(建仁寺/京都)、'25年個展(大阪・関西万博/大阪)、など多数。

受賞：'84年「日本新工芸展」新工芸賞('85年東京都知事賞)、'86年「全関西展」関展賞1席('87年同3席、'89年委嘱賞)、'88年「京都府工芸美術作家協会展」京都府知事賞、91年「京展」市長賞('93年同賞)、'00年京都市芸術新人賞、'11年「日工会展」内閣総理大臣賞('21年文部科学大臣賞)、「日中交流芸術大賞展」大賞、'16年京都府文化賞功労賞、'19年「日展」会員賞('25年文部科学大臣賞)など。

代表作：「命の煌めき」('15年)、「天照の空と海」('21年)、「生命の泉」('25年)



「命の煌めき」2015年



「天照の空と海」2021年



「生命の泉」2025年

大西 伸明(おおにし のぶあき) 現代美術 54歳

1972年岡山県生まれ。'98年京都市立芸術大学大学院美術研究科版画修了。'13年～'14年五島記念文化賞美術新人賞受賞によりドイツ・ベルリンに滞在。版画特有の「複数性」と「単独性」を併せ持つ中間領域を作品の起点とする。樹脂による型取りや版画技法を駆使し、日常に存在する身近なモノの表面を剥ぎ取るように写し出し、新たな形として生み出している。

京都市立芸術大学(版画専攻) 教員。多摩美術大学客員教授。



撮影：大河原光

展覧会：'06年個展「Desktop, Dress, Gray」(国際芸術センター青森)、'08年個展(入善町 下山芸術の森 発電所美術館/富山)、'11年個展「UNTITLED」(兵庫県立美術館)、'12年「自由になれるとき-現代美術はこんなにおもしろい!」(岡山県立美術館)、'14年「高松コンテンポラリーアート・アニュアル vol.04『リアルをめぐって』」(高松市美術館/香川)、'16年「榮水亜樹・大西伸明」(Galerie Nicola von Senger AG/スイス)、'20年「京都市京セラ美術館開館記念展 京都の美術250年の夢」(京都市京セラ美術館)、'22年「岡崎和郎・大西伸明『Born Twice』」・個展「光体」(MA2 Gallery/東京)、'23年「岡山県立美術館35周年収蔵品展 CORRELATION-交流と継承」(岡山県立美術館)、'24年個展「影見」(ギャラリーあしやシュール)、'25年個展「あらゆる透明なユーレイの複合体」(真庭市蒜山ミュージアム/岡山) など多数。

受賞：'97年「全国大学版画展」買い上げ保存賞・観客賞、'04年「京都府美術工芸新鋭選抜展」最優秀賞、'07年「あおもり国際版画トリエンナーレ2007」あすなる賞、'08年「第1回岡山県新進美術家育成」氏賞」大賞、'12年第23回五島記念文化賞美術新人賞、'13年「PAT in Kyoto：第1回京都版画トリエンナーレ」優秀賞、京都府文化賞奨励賞など。

代表作：「Mini cupa」('08年)、「Glass」('22年)、「Dodge ball」('25年)



「Mini cupa」2008年



「Glass」2022年



「Dodge ball」2025年
撮影：大河原光

京都美術文化賞 受賞者

※は故人

第1回(1988年5月)	※秋野 不矩(日本画)	※小牧 源太郎(洋画)	※坪井 明日香(陶芸)
第2回(1989年5月)	※麻田 浩(洋画)	小清水 漸(彫刻)	※伊砂 利彦(染色)
第3回(1990年5月)	※中野 弘彦(日本画)	※三尾 公三(洋画)	※藤平 伸(陶芸)
第4回(1991年5月)	竹内 浩一(日本画)	井田 彪(彫刻)	樂 吉左衛門(直入・陶芸)
第5回(1992年5月)	※吉原 英雄(版画)	※野崎 一良(彫刻)	※南 祥輝(漆芸)
第6回(1993年5月)	※中野 嘉之(日本画)	内田 晴之(彫刻)	面屋 庄甫(人形)
第7回(1994年5月)	※黒崎 彰(版画)	※鈴木 治(陶芸)	※来野 月乙(染色)
第8回(1995年5月)	※下村 良之介(日本画)	番浦 有爾(彫刻)	深見 陶治(陶芸)
第9回(1996年5月)	※岩倉 寿(日本画)	木村 光佑(版画)	※富樫 実(彫刻)
第10回(1997年5月)	※下保 昭(日本画)	※齋藤 真成(洋画)	※西嶋 武司(染色)
第11回(1998年5月)	※芝田 耕(洋画)	※山田 光(陶芸)	※澁谷 和子(染色)
第12回(1999年5月)	※小嶋 悠司(日本画)	林 康夫(陶芸)	※服部 峻昇(漆芸)
第13回(2000年5月)	※堂本 元次(日本画)	※井上 隆雄(写真)	※江里 佐代子(截金)
第14回(2001年5月)	※渡辺 恂三(洋画)	木代 喜司(彫刻)	福本 繁樹(染色)
第15回(2002年5月)	※岩本 和夫(日本画)	小林 陸一郎(彫刻)	※栗木 達介(陶芸)
第16回(2003年5月)	※森本 勇(洋画)	竹内 三雄(彫刻)	河田 孝郎(染色)
第17回(2004年6月)	※加藤 明子(洋画)	※木田 安彦(版画)	※林 秀行(陶芸)
第18回(2005年6月)	吉川 弘(日本画)	柳原 睦夫(陶芸)	望月 玉船(漆芸)
第19回(2006年6月)	西野 陽一(日本画)	宮瀬 富之(彫刻)	上野 真知子(ファイバ [®] -アート)
第20回(2007年6月)	※入江 酉一郎(日本画)	平岡 靖弘(洋画)	井隼 慶人(染色)
第21回(2008年6月)	木村 秀樹(版画)	秋山 陽(陶芸)	松本 ヒデオ(陶芸)
第22回(2009年6月)	※三橋 遵(染色)	八木 明(陶芸)	甲斐 扶佐義(写真)
第23回(2010年6月)	西久松 吉雄(日本画)	※野村 仁 (マルチメディア・アート)	田島 征彦(染色)
第24回(2011年6月)	山本 容子(版画)	小林 尚美(ファイバ [®] -アート)	森村 泰昌(現代美術)
第25回(2012年5月)	川村 悦子(洋画)	福本 潮子(染色)	伊部 京子(ファイバ [®] -アート)
第26回(2013年5月)	麻田 脩二(染色)	清水 六兵衛(陶芸)	川瀬 敏郎(花人)
第27回(2014年5月)	畠中 光享(日本画)	西野 康造(彫刻)	生田 丹代子(ガラス造形)
第28回(2015年5月)	浅野 均(日本画)	今村 源(彫刻)	久保田 繁雄(ファイバ [®] -アート)
第29回(2016年5月)	森田 りえ子(日本画)	松井 利夫(陶芸)	ヤノベ ケンジ(現代美術)
第30回(2017年5月)	箱崎 睦昌(日本画)	山部 泰司(洋画)	やなぎ みわ(現代美術)
第31回(2018年5月)	※小名木 陽一(織)	重松 あゆみ(陶芸)	鈴鹿 芳康(写真造形)
第32回(2019年5月)	名和 晃平(彫刻)	八幡 はるみ(染)	柏原 えつとむ(現代美術)
第33回(2020年5月)	近藤 高弘(陶芸)	山本 茜(截金ガラス)	宮永 愛子(現代美術)
第34回(2021年5月)	大野 俊明(日本画)	児玉 靖枝(絵画)	高橋 匡太(現代美術)
第35回(2022年5月)	伊庭 靖子(洋画)	笹井 史恵(漆芸)	中原 浩大(現代美術)
第36回(2023年5月)	北山 善夫(絵画・彫刻)	岸 映子(陶芸)	西山 美なコ(現代美術)
第37回(2024年5月)	猪熊 佳子(日本画)	吉岡 俊直(版画)	草間 喆雄(ファイバ [®] -アート)
第38回(2025年5月)	川嶋 渉(日本画)	赤松 玉女(洋画)	宮永 東山(陶芸)
第39回(2026年5月)	星野 暁(陶芸)	村田 好謙(漆芸)	大西 伸明(現代美術)

絵画 43名 (日本画21名 洋画14名 版画7名 その他1名)

彫刻 13名

工芸 42名 (染織13名 陶芸20名 漆芸5名 截金1名 截金ガラス1名 人形1名 ガラス造形1名)

その他 19名 (写真3名 ファイバ[®]-アート5名 マルチメディアアート1名 花人1名 現代美術9名)

計 117名